

受け手養成講座と継続研修

みなとチャイルドライン
〒105-0014 東京都港区芝1-12-18

助成事業の概要

私たちは「子どもたちが自身の力を発揮し、笑顔になれる社会の実現」を願っています。子どもたちをエンパワーメントする活動を持続するために、援助者（受け手ボランティア）を養成する「受け手養成講座」と、その傾聴スキルの維持・向上をするため「継続研修」を実施しました。

1) 受け手養成講座

新たなボランティア確保のため受け手養成講座を9月17日に開講し13名を受け入れました。子どもを取り巻く実情を学ぶ講義形式の講座は他団体と合同で行い（合同研修）、傾聴スキルを身に付ける実技形式の講座は自団体に実施しました。

2) 継続研修

すでに活動している受け手ボランティアを対象にスキルアップの継続研修を行いました。外部講師を招いて電話での子どもへの関わり方を点検するスーパービジョン研修を実施、援助的な関わり方のスキルアップを集中的に行う合宿研修や、受け手を支えるという専門的スキル向上のための外部研修に参加しました。

事業の成果

1) 受け手養成講座

9月17日に受け手ボランティア養成講座を開講し13名の受講者を受け入れました。そのうち、11名が全課程を修了し、10名がボランティア登録を希望しました。養成講座に引き続

き、現場での受け入れ研修を経て7名を新たな受け手ボランティアとして認定しました。

養成講座の開催にあたって一部の講座は他団体と一緒に合同研修の形式を取り、相互に情報交換をしたり、チャイルドライン団体としての連帯感を醸成したりすることができました。

2) 継続研修

すでに活動中の受け手ボランティアを対象に、スキル維持・向上のため各種研修を行ったり、外部研修に参加したりしました。

「スーパービジョン研修」を4回開催し、電話での対応について事例検証を行いながら、個人が自らのクセに気づき、別の関わり方ができなかったかを自らに問う機会となりました。

「合宿研修」に2名が参加し、援助的な関わり方のスキルを集中的に学ぶことができました。

「外部講座」として、受け手を支えるという専門スキルを学ぶために4名が参加しました。

これらの継続研修の実施によって、子どもたちの声を聞く受け手活動のスキルアップが図られ、その受け手を精神的に支える支え手体制の整備が進み、これまで以上に安心して電話を掛けてもらえる組織運営ができるようになったと思います。

成果の広報・公表

本事業における成果は、まず、毎年1月に行われる港区内の子ども関連ボランティア団体等の連絡会議（港区地域こぞって子育て懇談会）において

報告させていただきました。

また、子どもの気持ちに寄り添う傾聴スキルは、広く社会生活の中に根差していてもらいたいと願っているので、機会を見つけて体験型ワークショップを開催し、認知を高めたいと考えています。具体的には港区男女平等参画センター（リーブラ）において毎年6月に開催するフェスタにおいて、無料体験講座として提供できないかを検討しています。

■ 今後の展開

子どもたちが安心してつながることのできる「こころの居場所」として、チャイルドラインの子ども電話活動に携わる援助者（受け手ボランティア）の数を確保するとともに、電話を受ける（子どもたちの声を聴く）傾聴スキルを高めることを、これからも地道に継続実施します。

ボランティア数の増員ができれば電話活動の時間延長も可能になり、傾聴スキルが向上すれば子どもの本音を聴く機会が増えると期待できます。今後は子どもたちから聴かせてもらったことを広く社会に還元する活動にも力を入れていきたいと思っています。

また、子どもの力を信じ温かな眼差しで見守ることのできる大人とし実社会で生活することが、周りの大人たちに良い影響を与えることになるのではと考えています。地域で子どもを見守り、さまざまな大人たちがより積極的に子どもたちに関わる環境づくりに貢献できればと思います。